

令和２年度秋田県職業能力開発審議会の要旨

【日 時】 令和２年１１月１９日（木） 午後１時３０分から午後３時３０分まで

【場 所】 秋田県庁舎２階 議会棟「特別会議室」

【出席者】 学識経験者：江畠委員、佐々木（純）委員、佐藤（賢）委員、西野委員、山口委員

事業主代表：雑賀委員、佐々木（正）委員、堀江委員、山内委員

労働者代表：工藤委員、佐藤（和）委員、進藤委員、菅原委員

特別委員：橋委員

事務局：猿田産業労働部長、鈴木雇用労働政策課長ほか関係職員

【概要】

１ 開 会

２ 秋田県産業労働部長あいさつ

３ 委員紹介

４ 審議会会長あいさつ

５ 議 事

（１）報告事項

① 県立技術専門校 配置図・訓練科目について

② 令和元年度県立技術専門校の修了・就職状況について

③ 令和２年度県立技術専門校の入校状況について

④ 第１０次秋田県職業能力開発計画期間における職業能力開発事業の実績について

（２）協議事項

第１１次秋田県職業能力開発計画骨子案について

始めに、報告事項①から④について、事務局から説明後、質疑応答を行った。

続いて、協議事項について、事務局から説明後、質疑応答を行った。

出席委員からは多くの意見があったが、反対意見はなく、事務局が示した原案のとおり了承された。

質疑応答等の主な内容は以下のとおりである。

(報告事項について)

○ コロナで緊急事態宣言が出され、中学校とか小学校も休学になっている状況の中で、訓練校はどう運用されていたのか、例年に比べて、教育の状況がどのようなになっているのかをお聞きしたいと思います。

→ 訓練校でもコロナの影響を受けまして、休校等の措置を取らせていただきました。秋田校が一番長い期間休校しましたが、年間の訓練時間は学校と同様に決まっておりますので、足りない分は長期休暇等を潰して訓練に当てたという状況です。

こうした中、オンラインによる訓練等の検討も国をはじめとして進んでおります。

ものづくりの現場では実習が多いのですが、学科についてはオンライン訓練を実施しようと、県でも設備等を措置し対応しております。コロナ禍ですが、新しい訓練の形を模索しながら行っている状況です。

○ 鷹巣校の中卒以上のコースがついには0になったかと非常に残念です。高卒が当たり前の時代なので、中卒の科を今後どうしていくのかということが一つ。それから、同校の15名の定員を大幅に下回り、1年生2名、2年生9名となっている住宅建築科、大曲校の1年生4名の色彩デザイン科、県でこんなにいい学校があるのに、認知されていないので、もう少し告知というか、世間に知らしめて欲しいなという気持ちがあります。

→ 鷹巣校中卒課程では1年生が0名、2年生が1人です。鷹巣校全般に入校者が少ない状態です。

大曲校の色彩デザイン科、これは塗装を中心とするコースですけれども、「塗装科」では若い人達にはあまり印象が良くないかなということで、デザイン的な要素も加えております。オープンキャンパスや高校訪問によって、ダイレクトに周知を図っておりますが、伝わっていないことも含めて、学科のあり方も次期の計画の中で検討していかなければならないと思います。

○ 最近、建築現場の中でも女性が活躍しているとか重機など機械を動かしているというニュースも聞きます。技術専門校の中で女性の割合はどのくらいなのでしょう。

→ 2年度は、入校者数118名のうち、女性は20名入校しています。全体から見るとそれほど多くはないですが、大曲校の色彩デザイン科や、秋田校はメカトロニクス科など、若干女性が入校しております。

ものづくりの訓練でもパソコン等を取り入れている科目もありますので、女性が興味を惹かれそうな分野、ものづくりに興味を持つ女性が自分にもできるかなと思えるような科目の設定等は検討していかなければいけないと考えております

○ 定員数に満たないのは、大学進学や人口減少によることは分かりますが、以前秋田校に求人したところ、定員20名ですでにみなさん就職が決まっており、採用できませんでした。人気のあるコースの定員を増やすことはできないでしょうか。自動車とか電気、建築も大切な仕事ですが、秋田校以外にも人気のコースを増やすことはお考えでないでしょうか。

→ 訓練を指導できる者の数、あるいは教室スペースなど物理的な問題等々があります。秋田校にならたくさん集まるから、といってそこだけ定員を増やすといったことも、そう簡単ではありません。訓練カリキュラムや訓練科の設置についても、次期計画で検討するものと考えています。

(協議事項について)

○ 骨子案の離職者のコースについて、次期計画でコロナ禍による離職者をどんなふうに考えているのか、これまでの計画から離職者に対する考え方をどう反映したか、また、離職者へのカリキュラムとかコースを何か変更する予定はあるのかをお聞きしたいと思います。

→ 鷹巣校が実施する半年間のコースは年に2回実施しています。重機、大型機械の特殊免許が取得できる、技術専門校が直接実施している離職者向けのコースです。20人の定員ですが、比較的充足率も高く、ニーズはあると捉えています。

そのほか、国からの委託により実施している離職者訓練として、介護分野やIT関係、それに商業簿記などを併せたコースがありますが、県内各地の民間の教育訓練事業者に委託しております。これらは、ハローワークからの受講指示等を受けた方に、スキルアップと資格取得により転職等に生かしてもらおうというものです。国が示す訓練計画等について、労働局とも協議しながら、県計画を作成し、年3回に分けて委託を実施しております。

なお、潟上市にあるポリテクセンターでは、県とは別に離職者向けのコースを実施しております。そちらとの整合性も図りながら実施してまいります。

また、長期高度人材育成コースという、一年から二年間の長期間、例えば保育士の資格取得については、聖霊短大や聖園短大といった教育機関で受講する育成コースがございます。求職者には社会人枠で入学していただいて、その間手当を受けながら、学生として勉強してもらい資格を取得してもらい、いわゆる人手不足業種に就職してもらおうという考え方です。このコースは国から人数枠が示されますので、それを踏まえて、県から民間の学校等に受入をお願いしております。

来年度に向けての大きな変更点はなく、引き続き、離職者向けの訓練を実施してまいります。

○ 「時代のニーズを踏まえた技術専門校」とあります。例えば、秋田校の電気システム科ですと、太陽光発電の実習がありますが、今たくさん設置されている風力発電とか地熱発電とかの学科はないようなので、今後検討していただけるのかどうか、検討していただきたいなと思っております。

→ エネルギー関連、風力等々については今後考えていきたいと思いますが、訓練のための設備、ハード面の部分ですとか、指導員などの手当が必要になると思いますので、すぐ来年度、再来年度からという訳にはいきませんが、前向きに捉えていきたいと思っています。

○ 意識調査のうち求職者の回答で「公共職業訓練施設を知らない」が52.4%、それから高校生の「職業能力開発施設を知らない」が66.1%。いろいろな機会を捉えて、立派なパンフレットを作って周知しているんでしょうけれども、現状は周知されているのかなと、残念ながらちょっと足りないのかなと、結果を見る限り思います。

パンフレットも必要ですが、やはりホームページも重要と言われます。このアンケート調査の事業所からの「専門校への意見等」の中で、「ホームページで校を調べても取得可能資格がわかりづらい」とあります。ホームページを充実させることは、今の若い人達にとってもすごくいいことだと感じます。

ホームページをうまく見せるような取組で、もう少しPRを頑張ってもらいたいと思います。（意見のみ）

質疑応答後、次回審議会開催を令和3年3月中とすることとして終了した。